

ヒブ(Hib:インフルエンザ菌b型)ワクチン 接種を受けましょう



0歳～4歳の乳幼児のお子様をお持ちの保護者のみなさん、ヒブワクチンを無料で受けることができるようになりました。



★ インフルエンザ菌b型

多くの子ども達がノドや鼻の奥にもっている身近な菌ですが、体力や抵抗力が落ちたりしたときなどに、子どもの命にかかわる病気を引き起こす恐れがあります（細菌性髄膜炎、敗血症、喉頭蓋炎、肺炎、関節炎などの原因とされています）。

細菌性髄膜炎

子どもの命にかかわるこわい病気です。脳や脊髄を覆う髄膜に細菌が侵入して炎症を起こします。発症すると約10～30%で後遺症が残り、約2～6%が亡くなるとされています。

原因菌の約90%をHib（インフルエンザ菌b型）（年間患者数 約270～450名）と肺炎球菌（年間患者数 約150名）が占めています。細菌性髄膜炎に特有の症状というものはありませんが、高熱、意識がもうろうとしている、吐く、機嫌が悪いなど、気になる症状がある時は、かかりつけの先生に診てもらった方がいいでしょう。



★ ヒブ(Hib)ワクチンの接種方法

- 生後2ヶ月から5歳未満まで接種できます。（※無料となるのは5歳未満です。）
- 接種回数は、合計4回（初期免疫3回、追加免疫1回）が標準です。（※裏面に詳細）
- 1回あたり0.5mlを皮下に注射します。

子どものインフルエンザ菌b型が原因となる感染症を予防できます。約20年前に発売されて以来、世界中で、すでに100カ国以上の国でワクチンが取り入れられ、何千万人もの子ども達に接種されています。日本でも2008年12月からワクチン接種できるようになりました。

★ 予防接種の費用

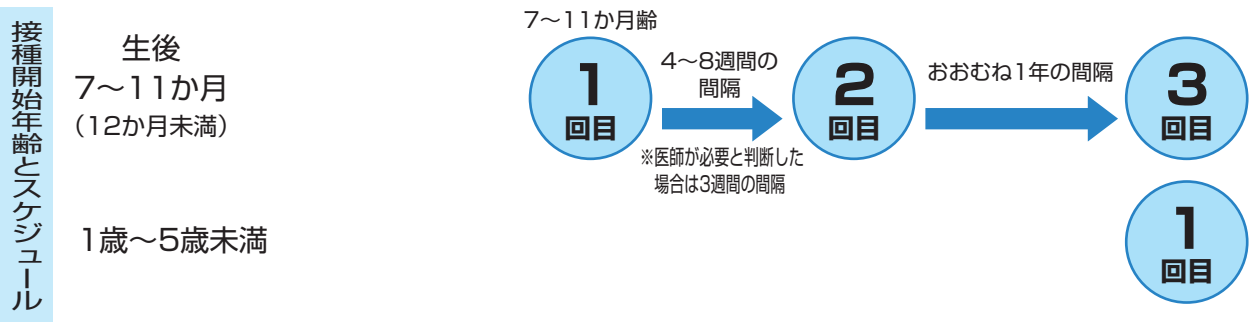
一般に、ヒブ(Hib)ワクチン接種を受けるには、3万数千円程度（標準接種を行った場合）の費用がかかります。市町村で助成事業を行っていますので、費用や接種を受ける方法については、お住まいの市町村にお問い合わせ下さい。

★ ヒブ(Hib)ワクチンのスケジュール

標準的な接種開始年齢の場合



標準的なスケジュールで接種をしなかった場合



ヒブ (Hib) ワクチン Q & A

Q ワクチン接種で、Hibによる髄膜炎、敗血症などをどれくらい予防できるの？

A 髄膜炎や敗血症^{※1}は、命にかかわる重い感染症です。海外（フィンランド）のデータでは、ワクチンを2回以上接種した方（97,000人）ではヒブ（Hib）による髄膜炎などの全身感染症の発症はみられませんでした。また、ワクチン制度が開始された後、Hib 髄膜炎の発症が数%にまで減少しました。

※1 敗血症：細菌によって引き起こされた全身性の炎症反応症候群です。非常に重症で、ショック、多臓器不全などから命を落とすことがあります。なお、傷口などから細菌が血液中に侵入しただけの状態は菌血症と呼ばれ区別されています。

Q ワクチンは希望すれば誰でも受けられるの？

A ヒブ（Hib）ワクチンは生後2ヶ月から5歳未満まで接種できます。ヒブ（Hib）による髄膜炎の患者さんの約半分が0歳代です。それ以降は年齢とともに少なくなります。そのため早い時期の接種が望ましいとされています。

Q ワクチンの副反応は？

A ワクチンを接種した後に、発熱や腫れなどが起こることがありますが、ほかのワクチンと同じ程度です。